

カリフォルニア大学バークレー校にて物理の研究をしております、森亮です。簡単に近況等をレポートさせていただきます。

1. パンケーキシンドローム

去年の年末に、「ヒャッハー！ホリデーだホリデーだ！！」と勢いよくルイジアナ州のニューオーリンズという街に旅行へ行きました。ニューオーリンズは以前学会で1週間ほど滞在したことがあったのですが、その時は全く観光もせずただひたすら自分の口頭発表に怯えながら暮らしていたので、今回こそは楽しむ気満々で飛び立ちました。ニューオーリンズには超有名なカフェがあり、そこで提供されるカフェオレとベニエ（ニューオーリンズの名物お菓子。ざっくり言うと穴の空いてないドーナツみたいなもんです。）が絶品です。食べ物は美味しく、大体どこにいてもシャレオツなジャズが鳴り響き、ニコラスケイジの墓がそびえ立ち（既に墓をニューオーリンズに購入済み）、他にも色々総じて超楽しい場所でした。帰り際になんとなく入った某薬局店でお水などを購入していた際に、例のカフェで提供している例のベニエの素の粉が売っていたので、こりゃええお土産になるやないか、とアホみたいな顔して購入しました。

そして年が明け、新年独特のフレッシュな気持ちで過ごしていた際に、ふとベニエの粉が目に入りました。（ジャズ聴きながら、食べちゃいなよ！）とどこかから聞こえたので、さっそく粉を手に取り、材料を揃え、ウキウキしながらベニエ作成にとりかかりました。家で作ってもおいしいやないか！さすがカフェDu Monde！と食後にご機嫌に鼻歌をふふう〜んと歌い始めたその頃、（あれ、風邪かな、急におかしいな）と、体に異変を感じ始めました。（あれえ〜おかしいなあ〜？（稲川淳二口調））くらいにしか思わなかったその感覚も、時間が少し経過すると、（なーんだか妙だなあ、なんだろうな〜っ（稲川淳二口調））という感覚になり、（嫌だな〜、これはなんだか嫌だな〜（稲川））という具合に本当に嫌な予感がしたので薄れゆく意識の中でググりにググりました。

似たような状況で同じような症状のものを探していくうちに、「アナフィラキシーショックによる死亡例が云々」という、なんらかの資料を発見しました。症状はもう完全にコレで間違いなかったのですが、肝心のアレルゲンがよくわからないままです。さらに検索すると、小麦粉などを開封して放置して数年したものにダニが大量に発生して、気づかずにそれを使って調理したダニアレルギーの人が、アナフィラキシーショックで死にかけた（or死んだ）という事例があるようです。「あいつだ！新品だったけど、購入当時まで絶対に高温多湿でテキトーな品質管理をされていたであろうベニエのあの粉、めっちゃ怪しい！」とほぼ確信しつつも、症状はどんどん悪化してい

き、徐々に呼吸も困難になり、視界も暗くなってきました。例のアナフィラキシーショックの資料によると、「死亡は初期の1-2時間で起こる」的な記載が。「ということは、あと僕に残された時間は…1時間か…」「人生色々あったけど、最後はベニエで死ぬのか…ベニエで…なんというマヌケなひびきなんだ、ベニエ」「ベニエに死すって映画なかったっけ」「ハンターハンターの4巻でバーボンさんが死んだのコレか…」とか様々なことに思いを馳せながら、とにかくERへ駆け込むことができ、一命を取り留めました。どうやら本当にアナフィラキシーショックだったようで結構危なかったみたいでした。ERへ駆け込む勇気を持って（まじで）良かったです。

後日、ベニエ作成で使用了材料を全て自宅にある簡易顕微鏡で一応チェックしてみました。いや、めっちゃいました、ダニ。それはもう本当にめちゃくちゃな量いました。ダニが。容赦ないくらいウジャウジャと蠢いていました、ベニエの粉に。今でも思い出すとなんだか痒くなります。ちなみにこの口腔ダニアナフィラキシーショック、パンケーキンドロームともいうそうです。なんてファンシーな名前なんだ…

2. デビュー

渡米して早7年が経過して、ついに車デビューしました。ついに運転をするようになったのです。このただひたすら広いアメリカにおいて、ここバークレー近辺では運転をすることなく普通にのびのびと暮らせていました。僕は日本で免許取得後10年くらい経ちましたが、実際運転したのは数回でした。文字通りペラッペラのペーパードライバーです。しかし近況の変化で運転する必要がでてきたので、近所でリハビリをしながら、ついに公道デビューを飾りました。そしてある日、意を決して高速道路へ飛び出しました。順調に、そして軽快にまっすぐの道を走ります。「オレは…自由だ…」とウツリと思ったのもつかの間、横から方向指示なしにこちらの車線へ突っ込んで来る車が。そしてその車を避けるためにハンドルを切ったところ、別の車と衝突してしまいました。まあ色々無事ではあったのですが、本当にそもそもでこっちに突っ込んできたあいつのことは絶対に忘れません（表情と服の色など目に焼き付いています）。「方向指示出さないやつ多すぎだろ…」と、今更アメリカの洗礼を受けた気がします。あれ、いや、僕これなんのレポートしてるんでしょうかね、すいません。次回はもうちょっと研究のこととか述べるように努めます。南無。